

バングラデシユー三条 子ども同士オンライン交流

栄中央小3年 寄付金集めも

国際理解をテーマに学ぶ三条市の栄中央小学校3年生34人が、オンラインでバングラデシユの小中学生と交流した。英語や日本語であいさつを交わしたほか、地域で回収したアルミ缶で得た収益金を現地の学校に贈った。

3年生は、バングラデシユ出身で見附市の会社員モハメッド・ヌルル・エラヒさん(56)との交流をきっかけに、同国について学んできた。貧困が大きな問題だ

と知り、寄付金を贈ることを決めた。

アルミ缶回収は5年生が2021年度に実施。3年生はチラシ作りや、協力してくれる地元の直売所、コンビニへお願いする際の注意点の助言を受け、2カ月間で約340キを集めた。収益金は4万8880円となり、エラヒさんが母国に建てた学校に贈られた。

8日は、オンラインで現地の学校とつなぎ、パソコンの画面越しに自己紹介し



たり、趣味を聞いたりしての子どもが日本語がうまくて驚き、話を楽しんだ。西巻季空(9)は「バングラデシユ」は「寄付金を学校のた

オンラインでバングラデシユと交流する栄中央小の子どもたち。三条市福島新田

めに使ってほしい」と望んだ。

栄中央小によるバングラデシユの学校支援の活動は、持続可能な開発目標(S

DGs)に関する取り組みを表彰する「第3回新潟SDGsアワード」で賞を取った。佐藤義朗校長(60)は「新型コロナウイルスや戦争など世界は大変な状況だが、子どもたちには世界のために自分ができることを見つけたい」と話していた。